

会派市民・有志議員「行政視察報告書」

(視察・調査の経過及び感想)

日 時 平成26/3/25(火)～27(木)
議 員 中野 隆、米田 克彦、藤井 隆弘
福谷 直美
段塚 廣文 (3/25～26参加)

1. 視察・調査の経過及び感想について

(1) 嬉野市 3/25(火) 14:30～16:30 「議会基本条例について」

標記の視察目的で訪問、副市長、議長他8名の議員の対応を受ける。議会事務局・議員よりの説明、質疑を行った。なお、嬉野市議会には18名の議員定数である。特別委員会として「議会活性化特別委員会」「議会広報編集特別委員会」があり、「議会活性化特別委員会」のメンバーが今回の視察の対応をしていただいた。「議会広報編集特別委員会」のメンバーは別室にて議会だより「うれしの」の編集作業にあたっておられた。議会改

革の流れが全国的に高まる中、嬉野市議会あるいは議員としての本来の職責を果たすため、議会改革が必要であり、制度づくりと実践の真摯な取組を明文化するため議会基本条例を制定する動きとなったということであった。

平成18年1月合併後、議会基本条例の立案にあたり各種学習会や先進地研修を行いながら、全員協議会などを通して研鑽を重ね、パブリックコメントや行政回覧による公表、市民からの意見募集等を経て、平成21年施行となった。

嬉野市議会基本条例の概要・特徴の概要は、下記のとおりである。

嬉野市議会基本条例のポイント

市民参加

- 全ての会議を原則公開とする。
- 積極的かつ多様な場を設定し市民などと意見交換する。
- 議会報告会を年1回以上開催する。
- 市民などの意見を反映した政策立案に努め、政策提案の拡大を図る。

情報公開

- 多様な広報手段を活用した情報提供を実施する。
- 議案の賛否などを公表する。
- 政務調査費の支出明細書、領収書などを全部公開する。

議会機能強化

- 政策討論による政策提案及び政策提言を推進する。
- 政策立案及び政策提言能力向上を目的とした研修を実施する。
- 市長等は、議員の質問に対して反問することができる。
- 議会のあり方について、不断の評価と改善、定例の検証を実施する。

議会報告会について

議会報告会は、平成21年施行後平成24年度時点で延べ45カ所、1116人の参加者となっている。

議員報告会は、「議員とかたろう会」として、公民館・研修センター・集会場などを会場として行われている。時間は19時30分～21時までの1時間30分として、報告(「議会だより」を中心として説明)、フリートーク(質疑)といった形を取



っている。会場設営、資料作成など議員が中心となって行っている。

制定後、苦慮している等(質疑)

- ・報告会の資料、運営等において配慮していることは何か。
- ◎資料は「議会だより」を元に行っている。議会だよりは「議会広報編集特別委員会」で編集している。議会報告会では、自分が担当したページについては責任を持って説明応答することとしている。会場選定・依頼なども議員が行っている。
- ・開かれた議会、市民に議会活動を知ってもらうために力を入れていることは何か。
- ◎基本的に情報はオープンに行っている。また、議会基本条例と「政治倫理条例」も併せて制定し、市政に対する市民の信頼に応えられるよう努めている。議会報告会も当初は説明が主であったが、フリートークを取り入れ市民からの声を聞き市政に反映することに主眼を置いている。

(2) 鹿島市 3/26(水) 10:00~11:30

「酒蔵ツーリズムと地域活性化」

暴風雨の最中、視察地である肥前浜宿に到着した。まちなみ散策も予定されていたが、あいにくの天候のため室内(駅舎継場)にて説明を受ける。

NPO法人 肥前浜宿水とまちなみの会事務局長、鹿島市観光協会代表理事の中村雄一郎氏が対応された。鹿島市は議会開催中であること、中村氏は元鹿島市議でもあったと聞く。

肥前浜宿について

有明海を臨む浜川河口の町で、江戸時代は長崎街道多良海道の宿場町として栄え、「浜千軒」とも呼ばれる賑やかな町で会った。明治時代以降も酒造業や水産加工業に支えられ、豊かな町並みがつくられた。「浜中町八本木宿伝統的建造物群保存地区(通称酒蔵通り)」と「浜庄津町浜金屋町伝統的建造物群保存地区」の2つの重要伝統的建造物群保存地区で形成されている。

酒蔵ツーリズムへの取組



鹿島市は古くから酒造りが盛んな土地柄であり、現在も6件の造り酒屋がある。豊かな自然、おいしい水と米、そして蔵人の手によって良質な酒が醸し出されている。

地元の酒造りと伝建群地区といった資産を繋いで地域活性化貢献させようとした取組である。

佐賀県は「酒蔵密度ランキング(100平方km当たり)」が福岡県に次いで全国2番目であり、その中でも鹿島市とその周辺には酒蔵が多い。

IWC(インターナショナルワインチャレンジ)で、2007年に日本酒部門が創設され、2011年に鹿島市の「鍋島大吟醸」がチャンピオン種に選ばれた。地域の春祭り兼ねて市内の6つの酒蔵めぐり、試飲、オリジナル商品等を加えた「鹿島酒蔵ツーリズム」が行われている。視察の日は「鹿島酒蔵ツーリズム2014」の直前ということもあり、関係者がオリジナル商品の箱詰め作業なども行っていた。期間は3月末の最終土・日を設定し、2012年の第1回が3万人、2013年が5万人の人出で賑わったと聞く。地場産業とまちづくりをマッチングさせた取組は本市においても参考になるものであった。

中村氏には視察後、雨が弱くなったということで短時間ではあったが、酒蔵通りを案内していただく。感謝。

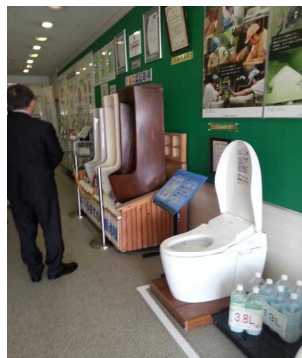


(3) 北九州市 3/27(木) 9:00~10:30 「産業観光の取組について」

前日、小倉に入り町並み散策、モノレールで市内の状況を事前に視察。地元タクシーの方の「小倉にはあまり見るものはない」という言葉が耳に残る。予定時刻にTOTO小倉工場着。工場内のゲストルームで、北九州市産業経済局観光部環境・ものづくり観光担当課長 上田ゆかり氏と係長 生野和彦氏より説明を受ける。

北九州市は、関門海峡をはさんで本州と接し、また大陸とも近いという地理的特性により古くから交通の要所として発展した。特に国内最大規模であった筑豊炭田を背景に控え、鉄道と港湾の二大インフラが整備された。日本経済の構造変化により、従来の素材型産業から付加価値の高い加工型産業への体質改善が進められている。また、深刻な公害問題にも直面し、それを克服する過程で蓄えたノウハウで世界の環境問題に貢献する「世界の環境首都」への歩みを始めている。市民・企業・業界が一体となった取組が進められている。

北九州市が現在進めている取組の中に「産業観光」がある。前述のような「環境」をテーマにした「環境修学旅行」、「向上夜景サミット」、グルメ、文学探訪などたくさんある資源を掘り起こし、それをアピールしていくことである。上田課長は説明の中で、「無い



物ねだりからあるもの探し」という言葉が使われていた。政令指定都市の北九州市で「見るものは何もない」ことはない。今あるものをいかに見直し、大切にしていくかである。

これは、本市においても同様のことが言える。「〇〇なんてたいしたことない。倉吉には見るものは何もない。」という前に、まずは自分たちの町の良さを知ることである。

TOTOの小倉工場内見学。TOTOは、水回りの総合メーカーとして有名なメーカーである。誰もが使うトイレ便器などの製造工程を見学させていただく。日本初の衛生陶器量産工場である小倉工場は1917年創立、原材料・燃料の調達がしやすく、アジアへの輸出にも便利ということでこの地が選ばれたという。より完成度の高い製品、先進的な商品開発に感嘆。また、TOTO(他の企業でもあるが)という企業と行政が一体となった観光産業という取組は参考とすべき点である。

2. 視察・調査を終えて

今回の視察は、「議会基本条例について」(嬉野市)、「重要伝統的建造物群をいかした観光の取組について」(鹿島市)、「産業観光の取組について」(北九州市)をテーマにした。「視察・調査の経過及び感想について」に載せたことはもちろんであるが、視察を通して他にも大切なことを痛感した。それは、自分たちの町の良さを知ること(あるもの探し)、市(市民)のために行政・議会ができる限りのことをしていこうとしている姿、そして「おもてなし」の心である。視察を通して本市に還元できることを取り入れ、市民の皆さまにお役に立てるよう精進いたします。ありがとうございました。

報告者：藤井隆弘

